

第69回卒業式 式辞

やわらかな光の中で、大地の鼓動が、確かな春の訪れを伝える今日。公私何かとご多用の中、多くのご来賓のみなさま、そして、保護者のみなさまのご臨席のもと、大阪市立木津中学校第69回卒業式をかくも盛大に挙行できますことはこのうえない喜びであります。高いところからではございますが、心からの感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、先ほど、中学校3カ年の全課程を修了し、卒業証書を手にした52名の卒業生のみなさん。卒業、おめでとうございます。皆さんが手にした卒業証書には、仲間とともに過ごした様々な思いが刻み込まれており、かけがえのない三年間の重みを感じていることと思います。授与の際に、担任の先生から名前を呼ばれ、それぞれの思いがこめられた「はい！」という返事や、証書を受け取る際の、堂々としたみなさんの姿からは、やり遂げた達成感、いろいろなことを乗り越えて

きた自信、これからの決意が伝わってきました。

みなさんとは、この１年間だけしか共に過ごすことができませんでした。たった１年とは、思えないほどの、印象的な出来事や日常があったように感じています。まず、みなさんが中学３年生になった４月、早速、沖縄への修学旅行がありました。集合時間がとても早かったにも関わらず、みなが時間通りに集合し、大阪では感じられない自然や文化でいっぱいの３日間でした。特に、「沖縄平和祈念公園」や「ひめゆりの塔」を訪れたり、戦時中に住民の避難豪として使用された自然洞窟の「ガマ」を見学したりするなど、１年生からずっと取り組んできた「平和学習」をさらに深めることができました。そして、実際の「現場」を目の当たりにすることで、「戦争」の「悲惨さ」「不毛さ」などを実感すると共に、真の「平和」とは何か？ そのために何ができるのか？ についても考えることができたのではないかと思います。

そして、みなさんはそれらの学びの集大成として、１０月に

行われた「なにわこども人権文化祭」において、『島守の塔』という劇に挑戦しました。この演目は、沖縄戦末期に実在した「沖縄県知事の島田勲（しまだあきら）さん」と「沖縄県警 警察部長の荒井退造（あらいたいぞう）さん」らが、絶望的な激しい戦闘に住民が巻き込まれていく中、住民を明るく励まし、生きることの大切さを伝えていくものでした。みなさんは、練習に練習を重ね、それぞれの役割や分担を果たしていく中、本番で見せてくれた「迫真の演技」が見ている人に感動を与え、劇の世界に見事に引き込んでいくことができました。特に、島田知事が、玉碎すべきと考えていた部下に「生きろ！！」と諭し、その言葉を信じ、実行した部下が、のちに「私生きましたよ」と慰霊碑に報告するシーンは、戦争のみならず、これからのみなさんにとっても大切な言葉として残っていくものではないかと感じました。ほんものの感動をありがとう。

この文化祭に限らず、さまざまな場面に全力で楽しみ、協力しながら取り組んでいく姿は、後ろに座っている後輩たちに、

しっかりと伝わっています。このように、約70年の歴史のある木津中学校に新たな伝統を築いてくれたことにも、「ありがとう」と伝えたいです。

みなさんは、今、9年間の義務教育を終え、4月からは、それぞれが選んだ、新たな道を進んでいくことになります。これからの人生、さまざまな分岐点が訪れるかと思いますが、その都度、自分で考えて、決めていくことができます。言い換えれば、誰かが決めてくれるのではないということです。自分自身の人生を、どのような道で歩いていくのかを、選べるということになります。「選べる」ということは、一見、自由にできていいことだと思いがちですが、その反面、自分で選んだ責任も生じます。今後、さまざまな選択において、結果的に「よかった」ということになるかもしれませんが、逆に上手くいかない場合もあるかもしれません。もし、上手くいかなかった時には、みなさんはどうするでしょうか？ 中には、自分で選んでおきながら、周りの人間が悪い、周りの

環境が悪い、などと、ついつい、自分以外の誰かや、何かに責任を求めてしまう人がいるかもしれません。というか、往々にして、我々はそうなりがちかもしれません。

私（校長先生）は、これまで多くの卒業生を送り出してきましたが、過去には、卒業生が中学校を訪れて、会いに来てくれました。そのこと自体は嬉しかったのですが、中には、「高校おもしろくないねん。中学校の方がよかったわ〜。」と愚痴をこぼす卒業生もいました。なにか、先ほどの話と通じることはありませんか？ そんな時に、その卒業生に「誰かにおもしろくしてもらおうと思うから、おもしろくならないのです。自分でおもしろくすることを考えてみては？」とよくアドバイスをしました。

私は、「前向き」という言葉がとても好きです。また、常にそうでありたいと思っています。同じ人生、どうせ生きるなら、常に「前向き」で、自ら楽しく、面白くありたくはありませんか？ みなさんには、ぜひともそんな人生を歩んでいてもらいたいと願っています。

そうは言っても、苦しいことや困難なことに出くわすことも考えられます。「前向き」という言葉だけでは何ともならないこともあるかもしれません。そんな時には、勇気をもって、いろいろな人に助けを求めてください。家族、友人、先生、ご近所さんなど、きっと、手を差し伸べてくれる人がいます。助けを求める力も、人として、とても大切な力であることを覚えておいてください。

これからは「人生１００年時代」と言われています。社会状況もより多様化が進むとともに、予測困難な時代とも言われています。技術の進歩も目覚ましく、ＡＩなどの発達により、現在ある職業の多くが、ＡＩがとって代わる時代になるとも言われています。ますます、人がすべきことは何か？ 人しかできないことは何か？ が求められていきます。そんな中、みなさんは、授業で「生成ＡＩ」に触れる機会がありましたね。奇しくも、みなさんの担任の先生方の授業でした。社会の授業では、裁判の学習で、模擬裁判を体験し、原告・被告

の主張をA I弁護士さんにサポートを受けて議論しました。また、英語の授業では、英作文をA Iに添削してもらったり、A Iを教科書に登場する人に見立てて、英語でインタビューをしたりしました。実際に授業を受けての感想はいかがだったでしょうか？ 私は、どちらの授業においても、みなさんが主体的に、いきいきと授業に参加し、生成A Iによるサポートを受けながらも、最後は自分で考え、意見や考えをまとめている様子がとても印象的でした。A Iがどんなに発達しようとも、人間にしかできないことをしっかりと見定めて、これからの未来を力強く切り拓いていってください。

最後に、保護者の皆さま、お子さまのご卒業おめでとうございます。この三年間、本校教育の推進にご理解・ご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。お子さまは、たくさんのかことをこの3年間で経験し、成長し、その力を発揮してくれました。これは、子どもたちの頑張りはもちろんのこと、保護者や家族のみなさまの支えがあったからだと思います。

本当にありがとうございました。

また、地域の皆様も引き続き卒業生を温かく見守っていただきますようお願いいたします。

私たち木津中学校の教職員一同も、卒業生をこれからも応援し続けて行きます。

卒業生のみなさん、いよいよ旅立ちの時です。思いっきり羽ばたいてください。

卒業生のみなさんが、大きく活躍されることをお祈りするとともに、本日この式に参列しているすべての皆様のご健康・ご多幸をお祈りして私の式辞といたします。

令和七年三月十四日

大阪市立木津中学校長 田中 淳